

令和 7 年度滝沢市内各種環境調査業務

一般道路騒音等調査業務

報 告 書

2026 年 3 月

滝 沢 市  
エヌエス環境株式会社



## < 目 次 >

1. 業務目的 .....	1
2. 業務概要 .....	1
3. 調査地点 .....	1
4. 調査年月日 .....	3
5. 調査項目 .....	3
6. 調査方法 .....	4
7. 調査結果 .....	6
8. 経年変化 .....	8

### 1. 業務目的

滝沢市内の主要な道路に面する地域において、道路交通騒音の実態を現地調査により把握することを目的とした。

### 2. 業務概要

業 務 名：令和 7 年度滝沢市内各種環境調査業務 一般道路騒音等調査業務

工 期：(自) 令和 7 年 7 月 3 日

(至) 令和 8 年 3 月 19 日

委 託 者：滝沢市長

受 託 者：エヌエス環境株式会社盛岡支店

### 3. 調査地点

調査地点は、滝沢市内の主要な道路に面する地域のうち、表-1 及び図-1 に示す 4 地点とした。

表-1 調査地点一覧

地点No.	所在地	用途地域	対象道路	備考
No.1	篠木黒畑地区	第二種住居地域	一般国道 46 号	国道
No.2	鵜飼諸葛川地区	第一種住居地域	県道盛岡滝沢線	県道
No.3	野沢地区	第一種住居地域	主要地方道盛岡環状線	県道
No.4	穴口地区	第一種住居地域	市道第三土沢線	市道



#### 4. 調査年月日

調査年月日を表-2 に示す。

表-2 調査年月日一覧

調査地点	調査年月日
No.1	2025 年 9 月 16 日 ～ 17 日
No.2	2025 年 9 月 16 日 ～ 17 日
No.3	2025 年 9 月 16 日 ～ 17 日
No.4	2025 年 9 月 16 日 ～ 17 日

#### 5. 調査項目

##### (1) 騒音調査

騒音調査における調査項目を表-3 に示す。

表-3 調査項目

調査項目	細 項 目
騒音レベル ・道路に面する地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>等価騒音レベル (<math>L_{Aeq}</math>) 「1 時間値 (エネルギー平均値の計算による)」 「環境基準に対応した 2 時間帯区分 (昼間、夜間) の値 (エネルギー平均値の計算による)」</li> <li>時間率騒音レベル (<math>L_{Ax}</math>)</li> </ul>
交 通 量	・4 車種分類 (大型車Ⅰ、大型車Ⅱ、小型車、二輪車)
走行速度	・上下車線別各 10 台程度

##### (2) 道路条件等調査

道路条件等調査における調査項目を表-4 に示す。

表-4 調査項目 (道路条件等調査)

調査項目	細 項 目
道路構造条件	道路構造、車線数、幅員、舗装種別、遮音壁の有無、信号交差点からの距離、制限速度等
測定断面長等	車道端からの距離、道路敷地境界からの距離、住居等からの距離、地上からの高さ、路面との高低差等
道路断面図	測定断面長等の情報を整理
その他	委託者と協議の上適宜

## 6. 調査方法

### (1) 騒音測定

#### ① 騒音レベル

騒音測定は、JIS Z 8731「環境騒音の表示・測定方法」及び「騒音に係る環境基準の評価マニュアル」（平成 27 年 10 月環境省）に従って実施した。

#### a 基準時間帯

騒音を評価する基準時間帯は、環境基準に基づき、昼間(6:00～22:00)、夜間(22:00～翌 6:00)の時間の区分とした。

#### b 観測時間

観測時間は、原則として 1 時間とし、1 日 24 時間の測定結果より各基準時間帯の等価騒音レベル( $L_{Aeq}$ )を求めた。

#### c 実測時間

評価マニュアルでは、1 観測時間を区分して間欠的に測定を行う場合、実測時間を長くすることで、当該観測時間の代表性を確保できる点を考慮し、実測時間は原則として 10 分以上とすることとなっている。また、突発的に発生する高いレベルの音や対象外の騒音などを評価対象から除外できるよう実測時間を設定する必要がある。以上の点を踏まえ、本調査では観測時間中に 10 分間の測定を 6 回行い、それを 24 時間繰り返す方法を採用した。

評価は、観測時間中に得られた 6 個の測定値から除外音を含む測定値を除いた残りの測定値をエネルギー平均し、その値を観測時間の騒音レベルとした。

#### d 測定機材

騒音計は、JIS C 1509-1 に規定されている普通騒音計で、計量法第 71 条の条件に合格した特定計量器を使用した。

#### e マイクロホンの位置

マイクロホンは、道路端（官民境界線）において建物等の反射の影響を受けない位置に設置した。なお、最終的なマイクロホンの位置は、委託者と協議のうえ決定した。

#### f マイクロホンの高さ

測定高さは、原則として地上 1.2m とした。

#### g 周波数補正回路

周波数補正回路は、「A 特性」とした。

## ② 交通量

交通量は、毎正時ごとに 10 分間、上下車線別の車種別交通量を測定した。分類する車種は、表-5 に示す車種分類とした。

表-5 車種分類表

車 種 区 分		細 区 分	対応するプレート番号
大 型 車	I	普通貨物車 特種用途車 乗合自動車	大型番号標 1、10～19、100～199 8、80～89、800～899 2、20～29、200～299
		特殊車	番号標 9、90～99、900～999 0、00、000
	II	普通貨物車 特種用途車 乗合自動車	小型番号標 1、10～19、100～199 8、80～89、800～899 2、20～29、200～299
小 型 車		上記以外のプレート番号で二輪車を除く車両	
二 輪 車		自動二輪車、原動機付自転車	

備考) 大型車Ⅱの特種用途車は、改造前の自動車が小型車と同程度の大きさの場合は、小型車としてカウントした。

## ③ 走行速度

走行速度は、毎正時ごとに 10 分間、騒音測定地点付近の上下方向別及び車種別の車両速度を、各 5 台を目安にスピードガンで計測、もしくは、あらかじめ 50m 程度の距離を測定し、この間の車の通過時間について測定し、上下方向及び車種別に平均走行速度を算出した。なお、測定は、交通量測定と同時に行った。実測時間中の通過台数が少なく、所要の台数に達しない場合は、走行速度が得られた台数の平均値とした。

## (2) 道路条件等調査

### ① 道路構造条件等

道路構造、車線数、幅員、舗装種別、遮音壁の有無、信号交差点からの距離、制限速度等について騒音測定時に記録し整理した。

### ② 道路断面長等

車道端からの距離、道路敷地境界からの距離、住居等からの距離、地上からの高さ、路面との高低差等について騒音測定時に計測した。

### ③ 道路断面図

①及び②の情報等を整理し、道路断面図、平面図を作成した。



## 7. 調査結果

### (1) 騒音レベル等調査結果

騒音レベル、交通量及び平均走行速度等の調査結果を表-6 に示す。

騒音レベルは、No. 3 が他の調査地点と比較し低い値を示した。

毎正時 10 分間交通量の 24 時間合計値は、No. 1 が最も多く、次いで No. 2、No. 4 と続き、最も少なかったのは No. 3 であった。

大型車混入率は、No. 1 の夜間が最も高く、次いで No. 1 の昼間、No. 2 の夜間であった。なお、全 4 地点の平均走行速度は、41 km/時～55 km/時であった。

表-6 騒音レベル、交通量及び平均走行速度等調査結果一覧

調査地点	時間帯区分	騒音レベル ( $L_{Aeq}$ ) (dB) [注]	交通量 (台) (毎正時 10 分間交通量の合計)			平均走行速度 (km/時)		大型車混入率 (%)
			上り	下り	合計	上り	下り	
No.1	昼間	68	1,875	1,634	3,509	55	55	10.6
	夜間	62	91	107	198	54	55	29.2
	全時間	66	1,966	1,741	3,707	55	54	16.8
No.2	昼間	66	1,274	1,132	2,406	41	43	6.3
	夜間	58	43	73	116	43	51	9.9
	全時間	65	1,317	1,205	2,522	42	46	7.5
No.3	昼間	63	646	574	1,220	45	45	5.4
	夜間	56	31	28	59	45	44	5.4
	全時間	62	677	602	1,279	45	45	5.4
No.4	昼間	67	911	867	1,778	47	47	1.8
	夜間	59	36	33	69	51	49	0.8
	全時間	66	947	900	1,847	49	48	1.5

[注] 全時間の欄の騒音レベルは、毎時 24 個分のデータのエネルギー平均値を示している。

## (2) 環境基準及び要請限度との比較

調査結果を「騒音に係る環境基準について」（平成 10 年 9 月 30 日 環境庁告示第 64 号）及び「自動車騒音の限度（要請限度）」（騒音規制法第 17 条第 1 項）と比較し、表-7 に示す。

No. 4 の昼間の時間帯において、環境基準を超過した。また、要請限度を超過した地点はなかった。

なお、「騒音規制法等に基づく規制地域の指定等」（令和 3 年 4 月 1 日 滝沢市告示第 110 号）より、都市計画区域で用途地域の定められていない地域について、環境基準類型の B 類型に指定している。

表-7 騒音レベルと環境基準及び要請限度との比較

調査地点	環境基準類型	用途地域	道路区分	車線数	時間帯区分	騒音レベル *	環境基準 *	要請限度 *	比較結果 **
No.1	B	第二種住居地域	一般国道 ⇒幹線道路	4	昼間	68	70	75	○
					夜間	62	65	70	○
No.2	B	第一種住居地域	県道 ⇒幹線道路	4	昼間	66	70	75	○
					夜間	58	65	70	○
No.3	B	第一種住居地域	主要地方道 ⇒幹線道路	2	昼間	63	70	75	○
					夜間	56	65	70	○
No.4	B	第一種住居地域	市道	2	昼間	67	65	75	△
					夜間	59	60	70	○

注) \* : 単位は dB

\*\* : ○⇒環境基準を超過していない。

△⇒環境基準を超過しているが要請限度は超過していない。

※地点 No. 1、2、3 の環境基準は、特例で定める幹線交通を担う道路に近接する空間に適用される基準を示す。

地点 No. 4（市道）の環境基準は、主として住居の用に供される地域のうち、2 車線以上の車線を有する道路に面する地域に適用される基準を示す。

## 8. 経年変化

各調査地点における騒音レベルの 2021 年度、2023 年度及び 2025 年度の経年変化を表-8 及び図-2 に示す。この経年変化は、2021 年度からの調査業務報告書に基づき作成したものであり、騒音レベルの評価値 ( $L_{Aeq}$ ) についてまとめたものである。

環境基準の達成状況をみると、No. 2 及び No. 3 地点は環境基準を満足している。一方、No. 1 及び No. 4 地点では、環境基準を超過する傾向にあるが、今年度は No. 1 地点の昼間の時間帯において、環境基準を満足した。

なお、本調査によって把握した道路端の騒音レベルは、自動車騒音の面的評価における基礎資料（騒音発生強度）として活用するものである。

表-8 騒音レベルの経年変化

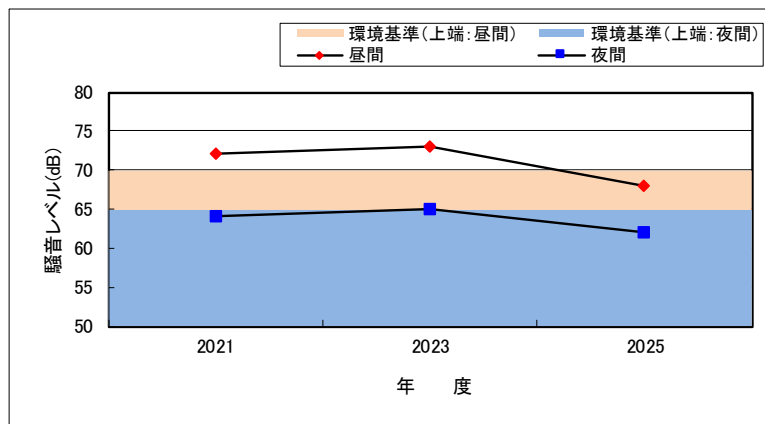
単位：dB

調査地点	時間帯区分	2021年度		2023年度		2025年度 (今回)		環境基準	要請限度
		騒音レベル	評価	騒音レベル	評価	騒音レベル	評価		
No.1	昼間	72	△	73	△	68	○	70	75
	夜間	64	○	65	○	62	○	65	70
No.2	昼間	68	○	67	○	66	○	70	75
	夜間	60	○	59	○	58	○	65	70
No.3	昼間	66	○	64	○	63	○	70	75
	夜間	58	○	56	○	56	○	65	70
No.4	昼間	68	△	68	△	67	△	65	75
	夜間	60	○	60	○	59	○	60	70

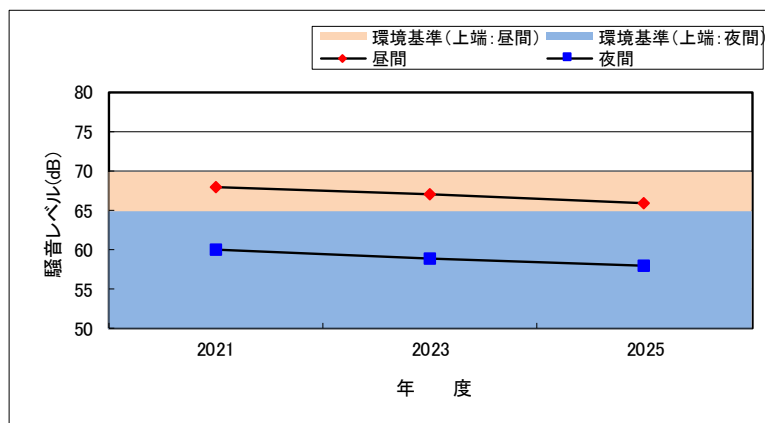
備考) 評価：○⇒環境基準を超過していない。

△⇒環境基準を超過しているが要請限度は超過していない。

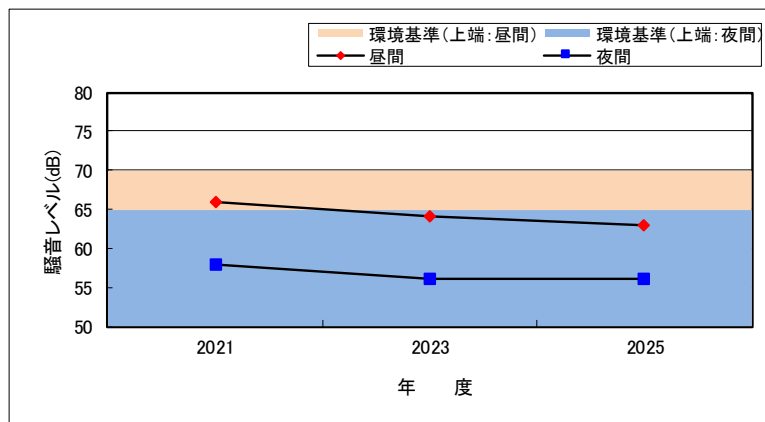
×⇒環境基準、要請限度とも超過している。



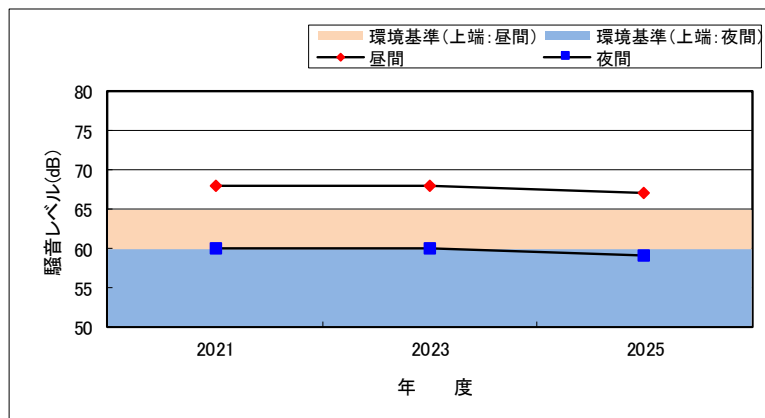
No.1 篠木黒畑地区



No.2 鵜飼諸葛川地区



No.3 野沢地区



No.4 穴口地区

図-2 騒音レベルの経年変化